

令和8年6月定例会 一般質問通告要旨

順番 1

質問議員名	長島 徹	
質問項目	質問要旨	答弁者
<p>1 子どもの居場所について</p>	<p>令和6年度、全国不登校児童生徒の数が約35万4千人で12年連続、過去最多を記録している中、当市においても令和6年度の小中学校の不登校児童生徒数が292人で、内100日以上長期欠席者及び、ほぼ全欠者が約90人であった。不登校児童生徒への「子どもと共に1・2・3運動やSSRによる心のケア」そして「校内教育支援センターや教育支援センター車野校」等による対策を講じている。しかしながら、毎年のように、不登校児童生徒数が過去最高を更新する中、令和7年度の新発田市での不登校児童生徒数が気になる処である。また、不登校問題は当市だけに限らず、近隣の市・町も共通の問題を抱えていると、教育長から答弁があった。そして市長からは、市長部局と市教育委員会が「二人三脚」で地域や現場の実情に合った不登校児童生徒への支援に取り組んでまいりますと、令和7年12月定例会で答弁があった。</p> <p>新発田市における子どもの居場所の多様化の必要性について市長、教育長に、以下質問します。</p> <p>(1) 当市でも不登校は大きな課題である。総合教育会議は市長が市の教育施策について議論、協議できる場であるので、更なる教育の充実のためにも不登校児童生徒の新たな居場所づくりについて、新発田市総合教育会議で取りあげ、今後の取組みについて教育委員会と議論、協議を行う考えはないか。</p> <p>(2) 令和6年6月3日に開設した「い〜ばしょばた」を不登校児童生徒が気軽に利用できるよう、是非とも拡大していただきたいと考えるが如何か。</p> <p>(3) 小中学校における令和7年度のそれぞれの人件をお聞かせいただきたい。</p> <p>① 不登校児童・生徒の人件</p> <p>② 100日以上長期欠席及びほぼ全欠の人件</p> <p>③ 教育支援センター車野校の登録者数</p> <p>(4) 新たな子どもの居場所のひとつとして、定住自立圏である胎</p>	<p>市長</p> <p>教育長</p>

	<p>内市・聖籠町・新発田市と阿賀野市を含めた広域エリアで、ひとつの「学びの多様化学校」の設立が必要と考えるが如何か。</p> <p>(5) 令和7年12月定例会の教育長答弁で「学びの多様化学校」は大人が目線で創った学校とあったがその理由をお聞かせいただきたい。</p> <p>(6) 当市では不登校児童生徒へ様々な支援策が講じられていますが、それでも通うことが難しい児童生徒がいるのも事実です。子どもの世界がより複雑化そして、多様化する時代の中であっても、一人でも多くの子どもを自立させる方法として、新たな居場所の創設が必要ではないかと考えますが如何か。</p>	
--	--	--